

婦人画報

つなぐ、つたえる
115
YEARS &
BEYOND
FUJINGAHO

連載「レンズを通して」
高円宮妃久子殿下

3 March 2020
No.1400

坂本龍一さんと
東北ユースオーケストラ

特別メッセージ: 吉永小百合さん

ようこそ!
アーティゾン美術館へ
1泊2日旅は、このバッグで
現代女性のための“春トレンチ”
いのちの体幹教室

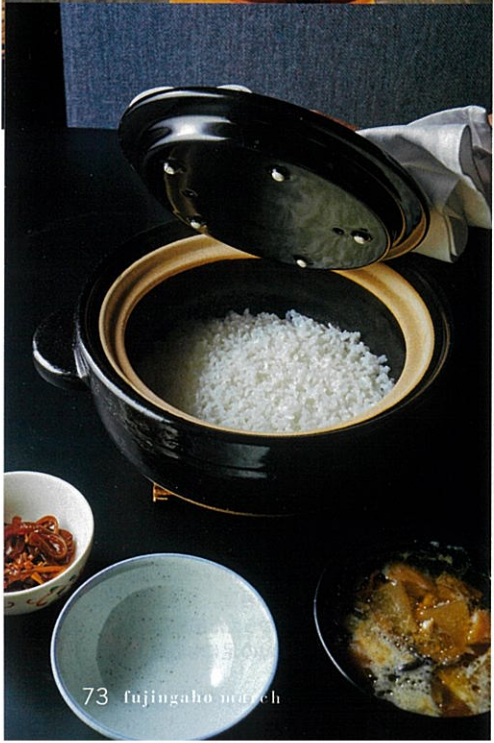
温泉旅館の未来形を考える

「プレミアム湯治」の宿

変わりゆく湯治の聖地、四万温泉へ
プライベートヴィラで湯治三昧
極上スパでホテル湯治



Magazine Cloud
電子版でも読めます



雪国の静けさのなかに灯る温かな明かりのような隠れ宿

新潟を代表する名旅館として愛された温泉宿「龍言」が、2019年7月、「ryugon」として生まれ変わりました。入り口からは想像できないほど奥へ奥へと広がる空間は、以前のバックヤードをパブリックスペースに造り替えるなど、古きよき風情を残しながら空間を整理し、モダンで開放的な雰囲気。バリアフリーも徹底し、館内を素足で歩ける気安さが家に帰ってきたようなくつろぎを与えてくれます。客室も、もともと武家屋敷や庄屋屋敷の風情を残した「クラシック」のほか、本館から渡り廊下で結ばれた離れ棟「ヴィラスイート」を8室、大きくリニューアルしました。

温泉は、六日町温泉と13号泉を源泉とした無色・無臭のふたつの混合泉。土蔵造りをそのままに生かした風情ある内湯は、体に負担がなく、気持ちよく長く浸かることができる熱すぎない温度に。庭園に面した露天風呂と交互に入れば、あつという間に時間が経過していきます。「龍言」時代からの、雪国に根づく文化



バーや田舎裏、図書コーナーのあるパブリックスペースは、国の登録有形文化財「幽鳥の間」までひと続きになっており、風通しのよい雰囲気。



〈上〉約4,000坪の庭園を眺めながら浸かる部屋付き露天風呂。〈中〉ワークショップでは、柿なます、あけびの塩漬、うどのきんぴらなど、種類豊富な郷土料理をお母さんたちと一緒に作って楽しむ。出発日のランチにぴったり。〈下〉コースのひとつ品、魚沼産コシヒカリの塩沢地区限定一等米は、ほくほくの土鍋炊き。



を伝承し、体験してもらいたい」という思いは変わりません。半世紀近く使われている土間のかまどで、ご飯を炊き、地元のお母さんたちの指導で、越後湯沢の郷土料理を作って食するワークショップ（4,500円、要予約）も行われるなど、さまざまに雪国の温かさを感じられます。

〈上〉庭園に面した「ヴィラスイート」の客室。開放的でありながらプライベート感も十分。〈左〉郷土色を盛り込みつつモダンに仕上げたフルコース「雪国ガストロノミー」からのひと皿。

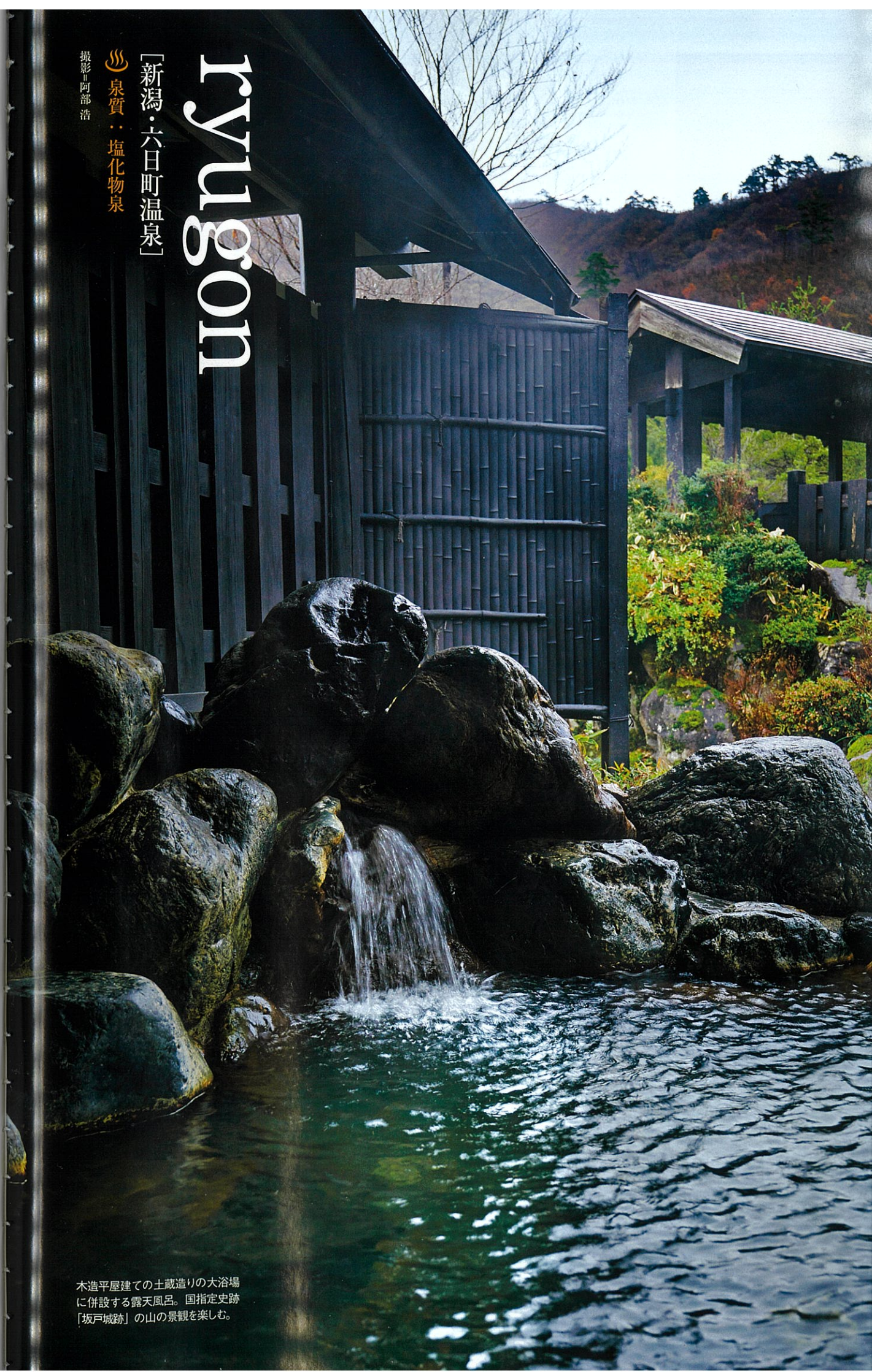
ryugon

新潟県南魚沼市坂戸1-6
tel. 025-772-3470
一泊2名1室の1名料金21,600円～ ※写真の客室「ヴィラスイート」は同48,800円～、夕食8,000円～、朝食3,500円 IN15時 OUT12時 全29室

「新潟・六日町温泉」
泉質・塩化物泉

撮影 阿部浩

ryugon



木造平屋建ての土蔵造りの大浴場に併設する露天風呂。国指定史跡「坂戸城跡」の山の景観を楽しむ。